

第 1 4 回返還予定ガラス固化体データの誤りの概要について

1 . 事象の経緯

平成 22 年 10 月 13 日 : 「第 14 回返還予定ガラス固化体の概要」についてお知らせ。
(関西電力、四国電力、九州電力)

平成 22 年 10 月 22 日 : 英国事業者より、返還予定のガラス固化体のうち、10 本
(四国電力 1 本、九州電力 9 本) について、既に提出されて
いる廃液の分析データの一部に誤りがあるとの報告を
受ける。 **誤り**

平成 22 年 11 月 5 日 : 誤り に係る調査の過程で、英国事業者より、さらに 5
本 (四国電力 3 本、九州電力 2 本) について、誤りがある
との報告を受ける。 **誤り**

平成 22 年 11 月 8 日
~17 日 : 英国セラフィールドサイトにて、現地調査を実施。
・原因と英国事業者の対策の調査・確認
・第 13 回返還ガラス固化体および第 14 回返還予定ガラ
ス固化体のデータのうち訂正分を除き、誤りがないこと
を確認
・誤りの訂正状況について確認

平成 22 年 12 月 3 日 : 英国事業者より訂正後のデータを受領。

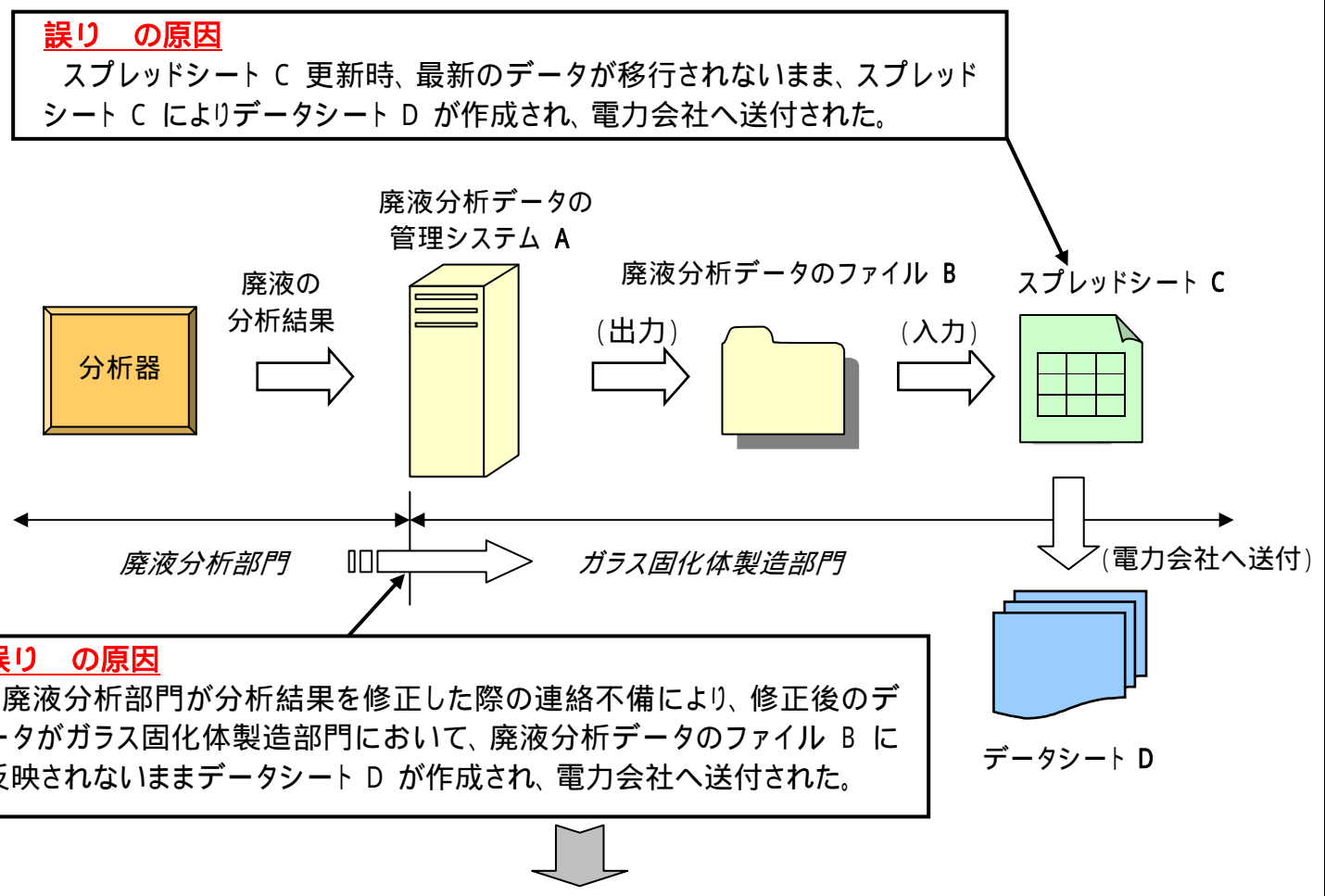
平成 22 年 12 月 15 日 : 訂正後のデータについて、誤りがないことの確認を行い、
日本原燃および原燃輸送に訂正後のデータを提供。

2 . 影響の程度

10 月 13 日公表資料別紙のうち、今回の誤りにおいて影響を受けたデータは、
○発熱量
○放射性物質の種類毎の放射能濃度
であるが、訂正後も記載数値 (返還予定ガラス固化体 76 本の最小 ~ 最大) の範
囲内であった。

3 . 原因と主な対策

英国事業者からは、廃液の分析結果を入力したスプレッドシートで作成されたデータシートが電力会
社へ送付される。
今回の誤りは、最新データの管理ミス (誤り) と分析結果の連絡不備 (誤り) により、このデー
タシートの中に一部最新でない情報が使用されていたものである。



主な対策 (誤り 及び)

【英国事業者】
分析データの受け渡しに係る情報連携の強化 (情報受信者の拡充、送信者による受信確認など)
電力会社へのデータシート D 送付前に、廃液分析データ A、データファイル B 及びデータ
シート D 間の照合を行うことを手順に明記する。

【電力会社全体】
英国事業者から、最新の廃液分析データのファイル B を追加提出させ、データシート D との
照合を実施
英国事業者から提出されたデータシート D が最新の廃液分析データ A となっていることを
英国での (搬出前) 検査時に現地確認

【ロイドレジスタ】
技術監査を委託しているロイドレジスタの監査対象の拡大、監査時期の適正化を図る。